

RCAST's Vision for Tomorrow: Coexistence, Equity, and Balance

先端研はなぜ 「共生・公平・衡平」について 考えるのか

杉山正和所長・教授

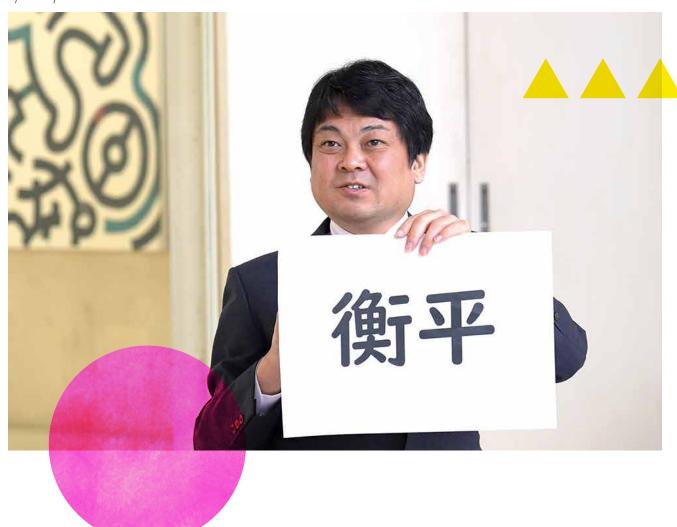
これに向けて、 先端研は、 間軸も時間軸も踏まえた上で考えながら行動 与え、そしてそこからまた自分の将来の姿が ティに対して、 ティティが生きて存在しているので、そうし 地球の上では、 それは単に個々の活動だけではなくて、 することを理想としています。 置きながら活動して突き進んだ結果、 どのように社会にもたらすのか、 のですが、それだけだと分散型になってしま してほしいとも同時に思います どう変わってくるのか、というところを、 た人間以外の、 きるのか、をひとりひとりが考えながら行 全体としてどんな思いを追求し、その結果を を向きながらも、その集合体である組織が うので、「自律」というそれぞれの信じる方向 う方向に向かってもらいたいとも思っている それぞれが自律分散的に、各々が正しいと思 織でありたいと考えています。それと同時 かつ自由に考えるフリーディスカッ 2027年に40周年を迎えます。 あるいは自分以外のエンティ 今後の先端研の方向性を真 自分の行動がどういう影響を 人間だけではなく様々なエ 「あるべき社会」を念頭に

する研究者たちが研究に存分に専念できる組

先端研)は、実にさまざまな研究領域をカバー

東京大学

先端科学技術研究センター



その中で先端研が目指すものとして、いわゆる社会包摂から繋がる調和のとれた社会、皆が生き生きと、誰ひとり取り残されずに活躍できるというような意味で「共生」という言葉を使いました。私としてはポジティブな意味での言葉でしたが、並木重宏准教授、当事味での言葉でしたが、並木重宏准教授、当事ら、この「共生」という言葉のさまざまな意味、ら、この「共生」という言葉のさまざまな意味、らいこの「共生」という言葉のさまざまな意味、らいこの「共生」という言葉のさまざまな意味、

けて何回か行ってきました。

この時に、「共生」という言葉とともに「公平」と「衡平」という言葉について考えるとともに、その先に広がる先端研と社会とのつながりについて話をしてみようということで、今回の特集は組まれてみようということで、

